



令和元年度中学校武道授業(剣道) 指導法研究事業

令和元年度中学校武道授業(剣道) 指導法研究事業(主催=日本武道館、全日本剣道連盟、日本武道協議会、後援=スポーツ庁)が7月5日~7日の3日間、日本武道館研修センターにおいて、研究者14名が出席して実施された。本研究事業は、平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の充実に向け、剣道の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価等の研究をするものである。今年度は、全国剣道指導者研修会の内容検討を中心に行われた。

■ 1日目(7月5日)

◇開講式

はじめに^{あじろただひろ}網代忠宏全日本剣道連盟常任理事が挨拶に立ち、「これまで全国5ブロックで開催してきた全国剣道指導者研修会は、令和2年度から東西2ブロックで実施予定です。中学校武道必修化の剣道は、皆さん方の努力でかなり浸透してきており、今後は小学校での武道必修化を目指していきたいと考えています。本研究事業では、これまで研究されてきた成果を発表いただき、次へのステップにしたいと思います。3日間よろしくお願ひします」と述べた。



網代 忠宏 常任理事

続いて、^{みつよしお}三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶し、「本研究事業の成果は、全国5ブロックで行う全国剣道指導者研修会で活かしながら、中学校武道必修化に伴う剣道の充実に大きな役割を果たしてきました。



三藤 芳生
常任理事・事務局長

2年後には新学習指導要領が完全実施となり、中学校武道必修化は新たな段階に入ります。また、本年度はスポーツ庁が外部指導者を活用した複数種目モデル実践校の予算・事業化を図り、各連盟・団体が協力しあい、必修化の充実に努めています。

3年後に設立45周年を迎える日本武道協議会では、①少年少女武道の活性化、②少年少女武道人口の増加、③小学校高学年への武道導入の実現、の3点を目的とし、少年少女向けの『指導書・DVD』を約5万部刊行する予定です。

本研究事業では、皆様方の知恵を集めて、指導法をしっかりと研究していただき、3日間が充実した内容となることを期待しています」と述べた。

◇検討協議

開講式に続き、^{きとうよしりのり}佐藤義則研究者が座長となり、『全国剣道指導者研修会指導ガイドライン』について、指導内容ごとに検討協議を行った。その後、各担当者が指導内容、指導上の留意点等を発表し、

指導ガイドラインの修正点を協議した。

続いて、音楽を活用した剣道授業、「リズム剣道」について、佐藤研究者より実施する上での大事なポイントが説明された。

夕食後、^{かるこめつよ}軽米満世研究者が全国指導者研修会の効果や課題について、昨年度の感想文を振り返り報告した。その後、^{なきりふみのり}百鬼史訓研究者が剣道授業の現状について、授業現場の写真を交えながら報告し、活発な意見交換がなされ、初日は終了した。



■ 2日目（7月6日）

◇ 検討協議・実践研究

午前には、^{ふじたひろみ}藤田弘美研究者が「剣道授業における評価」について、パワーポイントを用いて新学習指導要領への変更点を説明した。続いて、参考資料として佐賀県の中学校剣道授業映像を全員で視聴した。その後、4班に分かれ、学習の流れに沿ってどのような点を評価するのかを検討した。

次に、「剣道授業における楽しい動機づけ（新聞紙切り等）」、「剣道具のない場合の授業方法（礼法、木刀による授業例）」について、より効果の上がる指導方法を検討し、午前は終了した。



午後は、^{みやはらしょうじ}宮原昇治研究者が中心となり「木刀による剣道基本法」の指導・発声方法について、実技を交えながら検討した。網代研究者からは「一斉指

導で行う方法については、剣道を専門としない先生方に、まず動作をしっかりと覚えてもらうことが大切ではないか、指導方法は現場でやりやすい方法で行うのが良いのでは」との発言があった。



木刀による剣道基本技稽古法の指導方法研究

次に軽米研究者が中心となり、「基本となる技の段階的な指導（相手の動きに応じた基本動作）」について、指導ガイドラインに沿って文言の確認をしながら内容ならびに指導方法を検討し、共通理解を図った。

その後、百鬼研究者が全日本剣道連盟のホームページで公開された竹刀検査用基準器の説明の他、「剣道具・竹刀の安全」について解説をした。事故を未然に防ぐには、安全管理の徹底が大切なことから、竹刀の安全管理の重要性、剣道具の不備や熱中症の危険性、衛生管理の必要性について解説を行った。

■ 3日目（7月7日）

◇ 検討協議

令和2年度以降の全国剣道指導者研修会に向けて、実施内容、日程表の検討協議を行った。その後、実施要項の加筆・修正を行い、次年度以降の変更内容等の共通認識を図った。

◇ 閉講式

まず、^{いながわやすひろ}稲川泰弘全日本剣道連盟副会長が主催者挨拶に立ち、「現在、剣道界では小学校で剣道を始め、中学校で辞めてしまう子供が多いことが課題となっています。皆様方の知恵を借り、何とか解決していきたいと考えています。また、次年度以降、全国剣道指導者研修会も新たな形になるということで、全日本剣道連盟としても最大限努力していきたいと思っております。3日間お疲れ様でした」と述べた。最後に、中島昭博日本武道館振興課長が主催者挨拶を行い、3日間の全日程を終了した。